

# 高松第一学園視察報告書

委員名： 愛敬 重之

1. 視察先：高松第一学園

2. 視察日時：令和1年11月1日（金）10時00分～

3. 視察事項：高松第一小学校・高松第一中学校一貫教育・校について

4. 視察を通しての考察・参考となった事例・感想等

高松第一学園は、高松第一小学校と高松第一中学校からなる小中一貫教育校で、今年度創立9年を迎えます。もとはそれぞれ地域に、光洋、城内の2つの中学校と松島、築地、新塩屋町の3つの小学校がありました。



しかし、昨今の著しい児童生徒数の減少、新耐震基準、施設の老朽化などの問題から議論を重ねた結果、統合が進められた。新設統合校の整備に当たり、保護者、地域、学校および教育委員会からなる「新しい学校づくり協議会」で建設、教育や運営に関して専門的な検討を行いました。協議会の開催は約4年半で計32回に及びました。

小中一貫教育は、小中学校の切り替わり段階で起こるさまざまなバリアを無くし、スムーズに移行できるように配慮した教育カリキュラムです。

ここでは、「4つの壁」と「9歳の壁」を分かり易く教えていただき、この問題の解決をめざす小中一貫教育の推進を教えてくださいました。

1	橋のつながりの壁（友達関係）	複数の小学校から子どもたちが中学校に集まり、春学期とも重なる中で、その友達関係を構築するのに最初は大壁
2	坂のつながりの壁（先輩関係）	中学校に入り前活動も始まり、小学校とは異なる厳格な先輩後輩関係と出会う中で生じる壁
3	教科担任制に伴うかわり方の壁	難くなる学習内容の獲得と並行して、教科担任という新たな授業スタイルの違いに合わせて学んでいく壁
4	定期テストの壁・勉強の仕方の壁	体系的に学びを積み重ね、広範囲にわたって自分でカバーしているわけではない試験のスタイル、またこれに伴う勉強の方法で戸惑う壁

### 「9歳の壁」重視すべき課題

- ① 抽象的な思考の次元への適応や他者の視点に対する理解
- ② 自己肯定感の育成
- ③ 自他への尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養
- ④ 集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成
- ⑤ 実社会への興味・関心をもつきっかけづくり など

### 「4つの壁」



- 課題についての理解と判断
- 言語能力や認識力の高まり
- 自然等への関心の高まり
- 子ども同士の交流活動や自然体験の減少
- 社会性の不足
- 情緒的な不安定さ
- 周りの児童との人間関係構築ができない
- 集団生活になじめない

#### 子どもの成長の主な特徴

#### 重視すべき課題

- ・ 集団や社会のルールを守る態度
- ・ 規範の判断や規範意識の基礎の形成
- ・ 自然や美しいものに感動する心などの育成

- 教科を対象化して認識
- 課題をいかに分析が可能
- より分化した遊玩
- 自らを客観視
- 身体が大きく成長
- 自己肯定感を持ちはじめ
- 集団の規則を理解
- 集団活動に主体的に関与
- 兄弟の個人差が大きい
- 自己肯定感を持っていない
- 自尊感情の低下
- 劣等感を持ちやすい
- 個別的な子どもの時期集団が誕生
- 対等な行動

#### 子どもの成長の主な特徴

#### いっゆる「9歳の壁」

- 自分独自の内面の世界
- 自尊心と現実との相違に気づく
- 自らの生き方を模索
- 友人関係に強い興味
- 仲間内での評価を強く意識
- 親子のコミュニケーション不足
- 他者との交流に積極的
- 性意識・異性への興味関心

#### 子どもの成長の主な特徴

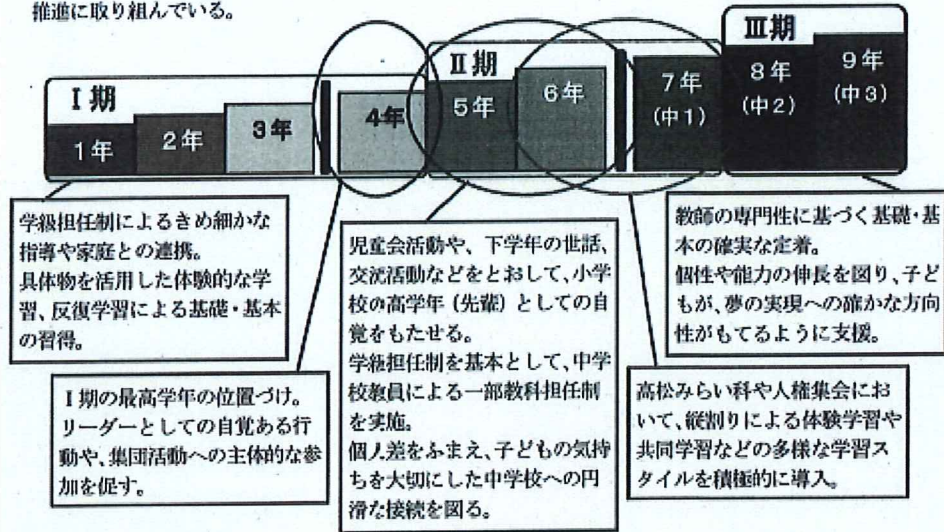
#### 重視すべき課題

- ・ 自らの個性や適性を探求
- ・ 自らの課題と正対
- ・ 自己の在り方を思考
- ・ 社会の一員として他者と協力
- ・ 自立した生活を営むための育成
- ・ 生きまじりの意識の涵養
- ・ 公徳心の自覚



「4つの壁」「9歳の壁」の課題解決をめざす小中一貫教育の推進

本学園では、「4つの壁」「9歳の壁」の課題解決を図るべく、義務教育の9年間を一連の期間ととらえ、従来の6・3制と、Ⅰ期（小1～小4）、Ⅱ期（小5・小6、中1）、Ⅲ期（中2・中3）による4・3・2制の双方のよさを生かし、子どもの発達やその課題を踏まえた適切な対応や支援を行う小中一貫教育の推進に取り組んでいる。



① 6・3制のよさについて

- 小学生から中学生になることは、少年期（児童期）から青年期への大きな節目となる。人間の成長過程では、そのような節目は非常に重要である。
- 高松市をはじめ、香川県内のみならず全国的にもほとんどの小・中学校はすべて6・3制である。転出や転入する児童生徒・保護者にとっては、違和感なくすぐにとけ込むことができる。

② 4・3・2制のよさについて

- 4・3・2の区切りは、現在の子どもたちの発達段階に合っており、確かな学力・豊かな心・健康やかな身体を育成するのに効果的である。
- 特にⅡ期（5・6・7年）においては、小学校から中学校への円滑な接続を図り、中学校入学に伴う学習環境や生活環境の変化によって生ずる様々な課題の解消に効果的である。また、小学校高学年から中学校1年の段階での発達課題への対応や、学習に対する意識の継続化を図ることができる。

③ 6・3制のよさと4・3・2制のよさを融合した小中一貫教育の推進をめざす

現在は全国で様々な区切りの小中一貫教育がなされているが、6・3制であれ、4・3・2制であれ、あるいは他の枠組みであれ、どれかに固定してしまえば、それなりの新たな問題は必ず起こってくるものである。どれか一つのシステムに統一・固定化してしまうというのではなく、それぞれにそれなりのよさがあるので、他の区切りのよさを取り入れていくという柔軟な発想や手法が大切なのではないかと考えている。

本学園では、6・3制と4・3・2制の両方のよさを無理なく効果的に取り入れ、両者を融合させて「4つの壁」「9歳の壁」の課題解決を図りつつ、9年間を見通した教育の推進をめざしている。

施設面でも柔軟に対応できる自由度の高い設計が重要。高松第一学園の基本テーマが『環』。幅広い校区から集まった年齢層のある児童生徒たちが一体感をもって学ぶためには、どうすればよいのか。そこから出されたのがこのテーマだそうです。学年毎の「まとまり」を意識しながらも、それらが相互に連続する「つながり」となり、学校全体としての一体感を育む『環』のしくみを構築しているようです。





## 施設一体型 小中一貫教育校『高松第一学園』

## 学校施設の特徴

### 1 小中施設一体型によって生み出された豊かな学習環境

- ・多様な学習形態に対応できる『ワークスペース（多目的スペース）』を設置
- ・児童・生徒の見守りとともに、児童・生徒と教員とのコミュニケーションのため『教師コーナー』や『教師ステーション』を設置
- ・進路相談や教育相談などのカウンセリングに対応する『相談室』や『会議室』を設置
- ・特別教室の小中共有化により、家庭科室を『調理室』、『被服室』として整備し、教科の特色を創出



■ワークスペース（多目的スペース）  
多様な学習形態に柔軟に対応しています。



■教師コーナー  
児童・生徒の学習環境には、教室内に先生のスペースを取り、児童の見守りを行っています。



■教師ステーション  
児童・生徒と教員とのコミュニケーションが、促されています。

### 2 新しい学校づくり協議会での検討を反映した教育環境

- ・普通教室とワークスペースを一体活用できる低学年（1階）の『可動間仕切り』
- ・学習に集中できる環境を考慮した小・高学年普通教室の『固定間仕切り』
- ・小・中学生の体格差に配慮した『2箇所の昇降口』
- ・学校トイレのイメージを払拭した『明るく清潔なトイレ』



■低学年普通教室の間仕切り  
多様な学習形態に対応する、ワークスペースとの学習に集中できるように固定間仕切りを採用し、1枚活用ができるように、可動間仕切りを採用しました。



■小・高学年普通教室の間仕切り  
学習に集中できるように固定間仕切りを採用し、コミュニケーションの場として整えられました。



■トイレの前室部分  
コミュニケーションの場として整えられました。



■校舎全景

### 3 留守家庭児童会（学童保育）

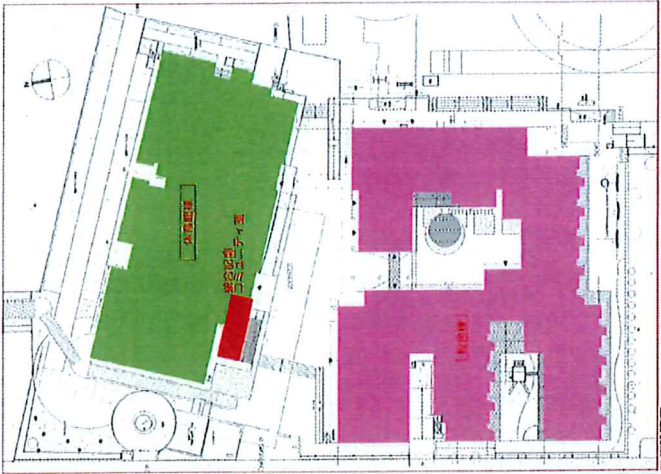
- ・学校と分けて管理できる留守家庭児童会室を校舎1階に設置



■留守家庭児童会室

### 4 3小学校と2中学校の統合校であることへの配慮

- ・統合対象校の記憶を残す展示や児童生徒と地域の方とのふれあいなどに利用するため、体育館棟に『統合記念・コミュニティ室』を設置
- ・子ども達によるワークショップの結果を遊具やアプローチの整備に反映



■施設配置



■アプローチのロングベンチ

■ポンプ遊上りを利用した遊具

ここで「高松第一学園」の校舎の特徴を質問しましたので資料を添付します。桑名市でも参考になると思われる。



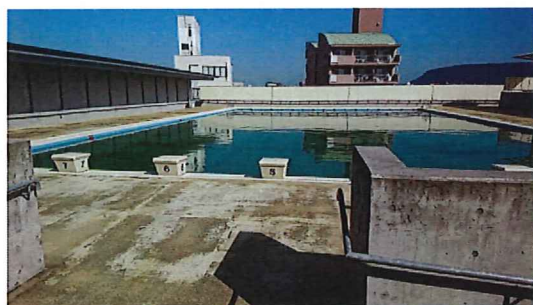
人気の図書館は小・中校別ですが、中階段とつながっていて、行き来ができるようになっていました。ガラス張りの吹き抜けのため、明るく開放的です。



また『環』は「地域の和」も目指しています。「総合記念室」は、統合校の記憶を残す展示や地域の方とのふれあいに利用するために設置。



建築的な『環』の工夫は、人々の交流だけでなく、エネルギー環境にも至ります。雨の少ない高松市では、雨水井水の再利用も重要で、校舎の屋根に降った雨水を殺菌してトイレ洗浄水やビオトープに利用。また、災害時非常時には体育館が単独で利用できるように工夫されており、体育館屋上にあるプールの水を飲料水に変えるろ過装置もあるようです。



今回、私が注目したのは地域の方とどのように接していくのかと思い、「高松みらい科」(総合的な学習の時間)を質問をしました。学年ごとにテーマが決まっていました。

**3年：自分の町の自慢を見つけよう。**

**4年：安心・安全な未来の街を描こう**

**5年：地域の伝統工芸を体験しよう**

**6年・7年合同：地域の環境や人に学ぼう**

**(環境教育) (技能・資格) (国際・文化) (商店街)**

**8年：働く人から学び、未来の社会について考えよう**

**9年：高松のよさを発信し、未来の社会を築く市民として、高松の未来の姿を提案しよう**

9年間で地域の様々な方達と出会い、高松の未来を提案する、すばらしい科目かと思いました。





## 高松みらい科(総合的な学習の時間)

3年 自分の町の自慢をみつげよう



4年 安心・安全な未来の街を描こう



5年 地域の伝統工芸を体験しよう



## ●小中合同授業

### 高松みらい科(総合的な学習の時間)

6・7年合同 地域の環境や人に学ぼう

#### キャリア教育



グリーン・エコ



食育



みんなのまちづくり



10

## ●小中合同授業

### 高松みらい科(総合的な学習の時間)

6・7年合同 地域の環境や人に学ぼう

#### 環境教育



技能・資格



国際・文化



商店街(古天神祭)



### 高松みらい科(総合的な学習の時間)

8年働く人から学び、未来の社会について考えよう



9年 高松のよさを発信し、未来の社会を築く市民として、高松の未来の姿を提案しよう



9年間の成果を伺うことができました

1. 9年間を見通した系統性のあるカリキュラム、小中相互乗り入れ授業による、学力が定着しつつある
2. 中学生が年長者としての意識がもてる
3. 小学校教員は、将来の具体的な姿を見通した指導  
中学校教員は、細やかな指導を心がけるようになった
4. 小中の綿密な情報交換と連携した対応による、新たな問題行動の未然防止・中1ギャップの解消

見えてきた課題

キーワードは「無理なく・長続きする」「教育的効果や価値の高い」小中一貫教育

1. 小中一貫教育の教育理念の継承
2. 協業の効率化
3. 行事の精選・統合

まとめ



高松第一学園を拝見し感じたのは、小中一貫教育は9年間の学びで子どもの成長が見れよいかと思いました。教員の負担については小中一体環境だとIT環境により軽減はされていると感じた。分離校の場合、かなりIT環境を整備しないと教員の負担が大きいように感じました。まずは、子どもが学びやすく、教員が働きやすくなることが重要かと思いました。

以上